

プログラム

7月30日(月)		7月31日(火)	
13:00~13:45	受付	8:30~9:45	講演2 吉井康文先生
13:45~14:00	オリエンテーション	10:10~	ホテル出発
14:00~15:30	講演1 田島征三先生	11:10~13:00	美術館自由見学
15:30~16:30	記念撮影、サイン会、休憩	13:00~	美術館出発
16:30~18:00	絵本ワークショップ 斉藤美恵子先生	~14:00	越後湯沢到着予定
18:40~20:30	夕食・こひつじ文庫クイズ大会		

※講師、プログラムは事情により変更となる場合もございます。予めご了承ください。

参加費

内容	参加費
全日参加	7/30-7/31全プログラム 24000円
部分参加①	7/30講演会、ワークショップ参加、7/31講演会、美術館見学 * 夕食、宿泊無し 12000円
部分参加②	7/30講演会、ワークショップ参加、* 夕食有り、宿泊無し 15000円
部分参加③	7/30講演会、ワークショップ参加 7000円
部分参加④	7/31講演会、美術館見学 5000円

2018年こひつじ文庫絵本セミナーin新潟・越後湯沢 参加申込書

こちらの参加申込にご記入の上、清光書店(FAX:045-241-5881) またはこひつじ文庫事務局(FAX:03-3260-5637)へお申込みください。(先着順・定員になり次第締め切りをさせていただきます。)

●園名・教会名

●ご住所

〒

●お電話番号(園・教会)

●代表者様緊急連絡先(携帯)

●お名前(ふりがな)

*ご希望に○をしてください。

・ 全日参加・部分参加①・部分参加②・部分参加③・部分参加④

・ 全日参加・部分参加①・部分参加②・部分参加③・部分参加④

・ 全日参加・部分参加①・部分参加②・部分参加③・部分参加④

・ 全日参加・部分参加①・部分参加②・部分参加③・部分参加④

・ 全日参加・部分参加①・部分参加②・部分参加③・部分参加④

●お申し込み日 2018年 月 日

●ご要望などございましたお書きください。



※参加費には、消費税、入湯税、美術館へのバス代、美術館の入館料、保険料も含まれています。

※ホテルは、温泉♨️ホテルです。お部屋は4人部屋をご用意しています。

※7/31の越後湯沢駅到着は予定時刻となっております。交通状況により時間の前後がありますので、お帰りのチケットは余裕を持ってお取りになられることをおすすめいたします。

※2018年7月29日-9月17日は、3年に1度の大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレが開催されており、関係で交通機関などの混雑が予想されます。

2018年度「こひつじ文庫」絵本セミナー

in新潟・越後湯沢 のご案内・お申込書



今年、自然豊かな、新潟・越後湯沢を会場に、『ふるやのもり』『だいふくもち』『とべ バッタ』『はたけうた』『ガオ』『ふきまんぶく』『ちからたろう』『かとりせんこう』『しばてん』『ほら いしころがおっこちたよ ね、わすれようよ』『花じんま』『やぎのしずかシリーズ』等々…多くの絵本でお馴染みの絵本作家田島征三氏をお迎えします。

絵本への溢れる思い、創作秘話、立体作品への取り組み等々をお聴かせいただきます。

そして、田島先生が廃校となった小学校を再生させた空間美術館「鉢&田島征三 絵本と木の実の美術館」への見学もあります。山と山に囲まれた集落にある美術館へ行くチャンスです。是非、この機会をお見逃しなく！

斉藤美恵子氏による「絵本ワークショップ」は、

ご参加の方々にグループに分かれていただいて、それぞれの絵本体験を、語り合い、分かち合う、ワークショップです。時には、絵本の話から膨らみ、それぞれの保育の現場で感じていること分かち合いに…。

ご参加の方々のとても良い交流が生まれている、毎年大好評のワークショップです。

こひつじ文庫特別アドバイザーの吉井康文氏からは、子どもたちや絵本を取りまく環境のこと、あっと驚く絵本の背景や、絵本の深く楽しい世界について、絵本の読み聞かせを交えながらさせていただきます。

他では手に入らない絵本グッズが当たる楽しいこひつじ文庫クイズ大会もあります！

聴いて、観て、感じる今年の絵本セミナーです。

皆さまのご参加お待ちしております！

●日時:2018年7月30日(月)13:00~7月31日(火)14:00

●会場:湯沢グランドホテル

〒949-6101 新潟県南魚沼郡湯沢町湯沢2494 TEL025-784-2351
(上越新幹線、上越線 越後湯沢駅より徒歩2分)

●参加費:24,000円(1泊2食付) ●定員:60名

●申込締切:6月30日(先着順、定員になり次第締め切り)

●お問い合わせ先:こひつじ文庫事務局(担当:寺田)








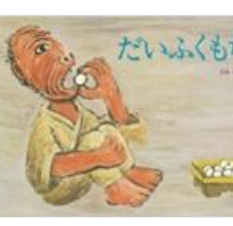








TEL03-3260-5670 FAX03-3260-5637 メール info@kohitujibunko.com



田島征三氏(絵本作家)

1940年 大阪府堺市で兄征彦と一卵性双生児として生まれる。(絵本作家・田島征彦は双子の兄。)
 6歳から19歳までを自然豊かな高知県(6~11歳 芳原村(現春野町)、11~19歳 高知市朝倉)で暮らす。この時期に、小川で魚を手づかみで持ったりした時の、生き物が掌の中で暴れる感触は今も創作の根になっているという。
 多摩美術大学図案科卒業を機に手刷り絵本『しばてん』を制作する。1969年に東京都西多摩郡日の出村(現日の出町)に移り住み、ヤギやチャボを飼い畑を耕す生活をしながら、絵本などの創作を続ける。
 新しい画風を生み出そうとして続けていたところ、ナスカの地上絵の写真を見て新境地が開ける。従来の絵本とは大幅に画風が異なる絵本『ほら いしころがおこちたよ ね、わすれようよ』を出版する(1980年)。1989年に日の出町に残る最後の美しい谷間が第2の巨大ゴミ処分場計画候補地になっていることを知り、夫婦で反対運動をおこすことを決意する。森の中で反対運動をしている間に森の植物や小動物との連帯を強く感じ、インスピレーションを得る。廃棄物処分場から焼却灰の飛散により胃がんを患い、胃の2/3を摘出する手術を行う。転地療法のため、伊豆高原(静岡県伊東市)に移住する。(1997年)手術後、体力をつけようと森の中を歩いていた時、シロダモ大木に呼び止められた気がしてふと立ち止まる。翌年の秋、その実を集めて制作した絵本『ガオ』を出版する。
 その後、絵本を作りながら、木の実や流木などによる作品を発表し続けている。
 2013年瀬戸内国際芸術祭では、ハンセン病の療養所の建物を丸ごと「空間詩・青空水族館」にした。2015年第6回越後妻有アートトリエンナーレ「おもいでをたべるオバケと考えるヤギ」作品出品等々……活動は多岐に渡る。

著作に、

			
ふるやのもり	ちからたろう	ほら いしころがおこちたよ ね、わすれようよ	やぎのしずかの しんみりしたいちにち
			
とべバツ	ガオ	はたけうた	だいふくもち
			
しばてん	くさむら	花じんま	ぼくのこえがきこえますか
			
しらないまち	かとりせんこう	あめがふるふる	ふきまんぷく

他、絵本、エッセイ集『人生のお汁』(偕成社)、『森からの手紙』(労働旬報社)、木の実などを使った作品集『生命の記憶』(現代企画室)など多数。

斉藤美恵子氏(藤女子大非常勤・こひつじ文庫アドバイザー)

1948年生まれ。札幌で生まれ育ち、幼児期より両親と教会に通い、中学2年生で洗礼を受ける。知的障がい児施設勤務を経て、42年間キリスト教保育に携わる。
 1994年よりこひつじ文庫アドバイザー。2017年度よりペンギんコース「読み聞かせのまえに」執筆者。札幌在住。

吉井康文氏(こひつじ文庫特別アドバイザー)

1958年大阪に生まれる。中学時代より絵本に興味を持ち、関西学院大学卒業後、書籍取次会社、絵本出版社こぐま社に勤務。講演会活動や絵本研究の講師を務める。また幼稚園で月に一度、子どもたちに絵本の読み聞かせを行っている。「こひつじ文庫」推進委員会前委員長。東京都在住。

「鉢&田島征三 絵本と木の実の美術館」

市街地を抜け、信濃川を渡り、山を越え、谷を越え、また山を登った十日町市のすり鉢の形をした鉢集落にあります。2005年に廃校になった真田小学校が、2009年7月26日「第4回越後妻有大地の芸術祭」にて空間絵本美術館として生まれ変わりました。

美術館は丸ごと、田島征三さんが長年思い描いてきた空間絵本です。
 その世界を表現するのは、流木や木の実、和紙を使ったオブジェたち。
 「鉢」の人たちと多くのボランティアスタッフの力で、田島さんのイメージがひとつひとつ形になり、空間絵本が作り上げられています。
 美術館への道のり、鉢集落も美術館そのもの。すべての空間をそれぞれの感性で味わっていただけます。
 それが「鉢&田島征三 絵本と木の実の美術館」です。



山に囲まれた美術館全景

ダイナミックな作品展示

鉢集落で採れた旬の野菜を使った料理や、素材にこだわったスイーツやドリンクをいただけるカフェ

